

0. 富士山

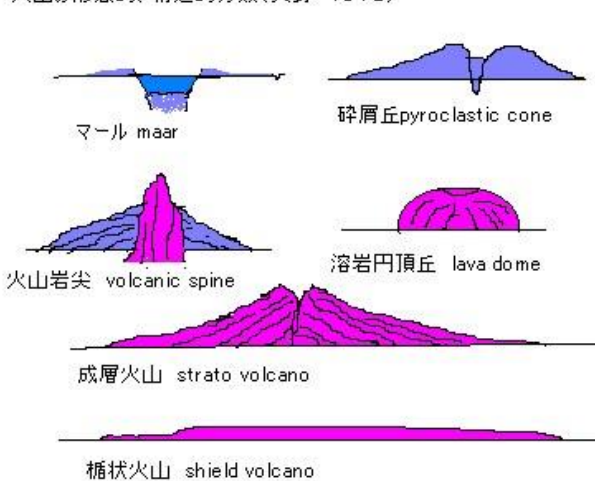
1. 火山の分類

マグマとは

マグマの粘性（化学組成，揮発性成分，温度などの関数）
大きく効くのは **SiO₂（二酸化ケイ素）の分量**
→これが火山の形，噴火の様式，火成岩の名前を決定

分類表

火山の形態的、構造的分類(久野 1976)



マグマと噴火様式・火山地形

化学組成	苦鉄質	←→	珪長質
岩石の名称	玄武岩	安山岩	石英安山岩 流紋岩
二酸化珪素の量	45% 少ない	←→	多い 75%
岩石の色	黒っぽい	←→	白っぽい
噴出時の粘性	小さい(流れやすい)	←→	大きい(流れにくい)
噴火様式	非爆発的(溶岩溢れ出し)	←→	爆発的
噴出物	溶岩	火砕物・溶岩	火砕物・溶岩
溶岩流	速く薄く広がる	流れにくく厚くたまる	流れない
火山の形	楯状火山	成層火山	溶岩円頂丘
火山の例	伊豆大島・三宅島	浅間山・桜島	有珠山・雲仙岳

※噴出物の色で噴火の程度は想像できる。

噴火年月日	火山名	犠牲者(人)	備考
1721(享保6)年6月22日	浅間山	15	噴石による
1741(寛保元)年8月29日	渡島大島	1,467	岩屑なだれ・津波による
1764(明和元)年7月	恵山	多数	噴気による
1779(安永8)年11月8日	桜島	150余	噴石・溶岩流などによる「安永大噴火」
1781(天明元)年4月11日	桜島	8、不明7	高免沖の島で噴火、津波による
1783(天明3)年8月5日	浅間山	1,151	火砕流、土石なだれ、吾妻川・利根川の洪水による
1785(天明5)年4月18日	青ヶ島	130~140	当時327人の居住者のうち130~140名が死亡と推定され、残りは八丈島に避難
1792(寛政4)年5月21日	雲仙岳	約15,000	地震及び岩屑なだれによる「島原大変肥後迷惑」
1822(文政5)年3月23日	有珠山	103	火砕流による
1841(天保12)年5月23日	口永良部島	多数	噴火による、村落焼亡
1856(安政3)年9月25日	北海道駒ヶ岳	19~27	噴石、火砕流による
1888(明治21)年7月15日	磐梯山	461(477とも)	岩屑なだれにより村落埋没
1900(明治33)年7月17日	安達太良山	72	火口の硫黄採掘所全壊
1902(明治35)年8月上旬	伊豆鳥島	125	全島民死亡。
1914(大正3)年1月12日	桜島	58~59	噴火・地震による「大正大噴火」
1926(大正15)年5月24日	十勝岳	144	融雪型火山泥流による「大正泥流」
1940(昭和15)年7月12日	三宅島	11	火山弾・溶岩流などによる
1952(昭和27)年9月24日	ベヨネース列岩	31	海底噴火(明神礁)、観測船第5海洋丸遭難、全員殉職
1958(昭和33)年6月24日	阿蘇山	12	噴石による
1991(平成3)年6月3日	雲仙岳	43	火砕流による「平成3年(1991年)雲仙岳噴火」
2014(平成26)年9月27日	御嶽山	63	噴石等による

「日本活火山総覧(第4版)」(気象庁編 平成25年)に加筆。

<最近の噴火あるいは顕著な活動>

- 霧島新燃岳：2011年1月噴火
 - 西之島（新島）：2013年11月以降，噴火活動，溶岩の流出の継続
 - 口永良部島：2014年8月3日噴火
 - 諏訪瀬島：2015年~小規模噴火
 - 阿蘇山：2015年9月，2016年10月小規模噴火
 - 箱根山：2015年6月「噴火警報」警戒レベル3
- このほか桜島はずっと小規模噴火が継続

<参考文献> 高橋正樹「破局噴火」/祥伝社新書 780円+税